



「浜松、最後の秘境」  
一泊二日

クリエイティブサポートレッツ編

障害者施設を「観光」する連載を考えた。  
それは、障害者を見物すること。  
いいのよ、そんなこと、と思ったけれど、  
いいのよ、いいのよ、  
うちは前からやってるよ、と  
静岡・浜松市のクリエイティブサポートレッツが  
手を挙げてくれた。  
観光を終えての帰り道、  
「ああ、世界は広いなあ」と、  
何度思ったことか。  
揺さぶられ、こわばりがほどけ、  
何も答えはないけれど、  
確かにみんなにこやかに帰っていった。



「タイムトラベル100時間ツアー」  
に参加した。テレビ番組の名前みたい  
だが、これは、クリエイティブサポート  
レッツが昨年(2016年)からはじめ  
たツアーの名前。二日目の朝、扉を開  
けると、昨日は見かけなかった人が、  
ものすごく近くに立っていて、手を差  
し出された。昨日なら、周りの人の様  
子をうかがいながら手を出していた  
けれど、今日はさっと手が出た。まず  
は無事握手。一日で自分もちょっと変  
わったかななんて思っていたら、その  
まま首にチューされた。思わず、なん  
てことない顔を装おうとする自分。  
でも、よだれがつくのは想定外だ。そ  
のまま意外と力強い手に引っ張られ  
て、二階へ上がる。手をつないでいる人  
の名前もまだ知らない。今日もあっと  
いう間に、巻き込まれる。  
ツアーでやることは決まっていな  
い。一泊二日、ただひたすら時間を過

ごす。代表の久保田翠さんはその意  
図を「来てもらわないとわかってもら  
えないなって思ったんです。これまで  
舞台とか、出かけて行ってやったりも  
したんですが、嘘っぽくなってしまっ  
生々しい現実をみんな抱えてるはず  
なんだけど、そこにどうしても蓋を  
しがち。こういう人がいるってことを  
まず知ってもらいたい。その「一つとし  
て、観光を考えました。来て、見て、体  
験してもらおう。これまで途中で『もう  
いい』と怒って帰ってしまう人もいた  
けれど、それも含めて、いいと思うん  
です」。

「見るべきもの」が用意されている  
わけではないから、旅行者によって、  
全然違う体験が待っている。だからこ  
れから書いていく出来事も、ほんの一  
部、一面なのだ。テレビの健康食品の  
CMに出るテロップ、あくまでも「こ  
れは個人の感想です」。

編集部=文  
rest by KOTONONE  
加藤友美子=写真  
photograph by Yumiko Kato